

碁花連 ニュース

№70号

碁花連の目的

ボケ防止のために、老人囲碁同好者の誰もが『碁を樂じむこと』が出来ぬよう、機会と場所を確保するために相依カシ、囲碁を通じて親睦を図り、更には、より良き福祉社会の建設に貢献することを念願とする。

発行日	平成7年11月8日
発行所	八王子の碁を樂じむ老人連
〒	193 八王子市初沢町1434-86
TEL	(0426) 66-3754
発行人	熊崎正一

文化の日に憶う

毎年11月3日の文化の日を迎えるに当り、数々年、文化勲章受章者の御名前を挙げた度毎に、誠に残念な次第と思ひ嵩まされている華板がござります。それ故、『岩本薰先生が囲碁を通じて國家、国民に貢献している功績』については、日本人のみならず世界の囲碁人にも広く認識されており、文化勲章の最適性と信じてゐるにも抱ゆる後輩されないと云う事に対する疑惑です。

文化勲章の銅衡基準又は仕事などについては理解出来ませんが、所管の文部省銅衡委員会は旧態依然で、時代の変遷に伴う認識に即応した措置が疎かであつてゐるのはいかがと云う事です。

即ち、囲碁は昔より勝敗争だ、遊びだ等と花札やマージャンと同様に草野の趣味過ぎないとして取扱われて来ました。昭和40年当時、政界、財界、マスコミ等、協力して『囲碁は藝術性豊かな我が国伝統の文化』だと主張し、国際的反響及活動を展開する所へと至った。

当然の草野から岩本先生も其を歴められてゐる。

この際、序でながら趣味としての囲碁の重要性について申し述べさせて頂きます。萬能社会を迎えるに当り、国家の重要な事件として老人介護問題が浮上しておりますが、老人自体にとって、『ボケ老人に頼らぬい』と言う事が最大の責務と自覚し努力することが肝要と存じます。

幸いにも、在職中囲碁、将棋等を趣味として樂んで参りました方々は、退職後も囲碁将棋等ボケ防止に役立つ趣味を継承し、余生を大いに樂んで下さい。その事が、国家に貢献する最大の奉仕事業だと心得、堂々と胸を張って生き下さい。

このように、囲碁は我が国の伝統的な藝術文化として誇示する価値がある存在であり、我が国文化界において、囲碁人口は圧倒的な大勢を誇り天下。

岩本先生は、明治35年2月5日生れの今年93歳で、日本棋院顧問として御元気にお逝り(本ニュース6頁の記事参照)ですが、過去において囲碁界の最高齢としての本因坊位に就任され、其の後は、『囲碁を世界に』の理念実現のため奔走されておられます。

先生の業績については、日本棋院発行の週刊棋に掲載の『薰和隨想、新・囲碁を世界に』の「私と棋院の70年」に集録されており大作。

以上述べましたように岩本先生は、世界の囲碁界の先駆者として評価されておりました。

その岩本先生に文化勲章が授与されないと云うことは、日本文化界の尊び不足いであります。

(熊崎正一)

(/)

第6回基督教連盟大會

開催日 平成7年10月29日
会場 鶴谷福社セミナー

Aクラス(4段以上)成績表

左夏木(1)

B1ラス(3段・2段)成績表

左頁六

1	3	0	0	2	2	2	2	1	1	2	2	2	3	1	3	1	1	2	2	1	0	1	2	2	1	1	1	3	0		
2	0	X	X	0	0	0	X	X	C	0	0	C	0	0	X	0	X	0	X	X	X	X	X	0	X	0	X	④	X		
3	周	市	福	井	丹	池	吉	清	石	崛	長	佐	中	山	井	11	KP	奥	高	福	植	森	中	雨	定	大	浦	江	小	不	福
4	日	川	田	田	田	田	水	黑	五	島	廉	平	剛	田	井	崎	施	村	井	鶴	松	田	鶴	庭	屋	野	田	口	川	陽	井
5	X	0	X	X	X	X	0	0	0	X	0	0	X	0	0	X	X	0	X	0	X	X	X	X	X	0	0	X	0	X	
6	東	久	吉	小	長	杉	岩	福	森	安	片	清	倉	八	守	安	國	西	佐	山	高	高	山	倉	強	山	大	中	五	丹	
7	義	田	保	日	種	崎	本	田	牛	田	跡	山	水	11	川	川	屋	松	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	
8	X	0	X	X	0	X	0	X	X	0	X	0	X	0	X	X	0	0	X	0	X	X	X	0	X	0	X	0	X		
9	足	移	良	雨	江	久	奥	福	山	穗	事	倉	八	片	清	福	漢	浦	地	11	石	大	石	木	河	清	福	大	片	佐	
10	金	里	宣	口	保	村	松	湖	谷	田	收	川	山	水	鶴	本	井	田	黑	施	谷	田	野	部	川	田	木	不	國	福	
11	3	12	61	60	55	55	57	58	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32		
12	火	長	杉	红	雨	奥	久	山	植	事	破	小	倉	片	清	福	地	植	都	石	岩	大	井	水	溝	河	六	福	佐	井	
13	山	崎	本	口	宣	村	保	田	松	田	径	川	田	木	山	本	島	田	井	施	黑	田	谷	野	川	部	李	田	福	圓	
14	走	微	後	弱	國	方	四	安	照	光	父	孫	四	羊	達	眞	佐	倫	威	盛	善	博	成	喬	夫	深	和	健	一	深	
15	並	久	三	種	藏	草	宏	明	郎	二	男	之	收	彦	郎	助	雄	信	衝	馨	介	史	明	史	長	喜	博	成	喬	夫	深
16	2	2	2	2	2	3	2	3	2	2	2	3	3	2	2	2	3	2	2	2	3	2	2	2	3	3	3	2			

大東人統人

A 73次成績表

手連

2	2	2	3	1	2	2	1	1	2	1	2	0	2	3	0	2	0	0	3	1	3	0	1	1	計					
X	0	0	0	X	0	0	X	X	0	X	0	X	X	0	X	X	X	0	0	X	X	X	X	X	總數					
奥	山	八	城	小	龜	很	キ	大	豊	平	西	佐	キ	大	新	近	遠	謙	伊	藤	銀	清	藤	村	高					
山	下	木	西	谷	本	原	前	原	田	山	山	原	シ	山	浦	梅	藤	平	藤	藤	田	木	(一)	綱	若					
0	0	0	0	0	X	0	X	X	0	X	X	X	0	X	0	X	X	0	X	0	X	0	X	X	總數					
菊	山	八	佐	雨	石	清	遠	夏	藤	伊	藤	新	守	早	銀	山	浦	梅	龜	國	藍	小	平	祝	松	青	在	對		
不	地(金)	不	回	忘	川	(五)	藤	田	天	天	藤	田	天	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	高		
0	X	X	X	X	X	0	0	X	X	0	0	X	X	0	X	0	X	X	0	X	0	X	X	0	X	X	總數			
豐	城	十	豊	城	小	藤	佐	辰	早	山	天	山	伊	藤	藤	近	新	首	在	青	山	木	木	木	木	木	木	木		
正	日	徐	本	山西	綱	田	川	下	原	德	藤	德	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	木		
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	NO.
城	豊	第一	寶	根	藤	小	養	忙	山	早	山	大	祝	伊	藤	藤	新	近	在	首	山	清	石	大	寺	产	國	龜	火	
田	主	田	主	田	主	山	本	平	西	田	藤	下	川	本	河	藤	田	开	保	平	原	藤	本	水	曲	盛	本	泉	村	江
太	弘	深	和	忠	高	季	則	徳	美	藤	藤	徳	美	藤	藤	徳	美	徳	徳	徳	徳	徳	徳	徳	徳	徳	徳	徳	徳	徳
節	伯	私	藏	英	紀	輪	微	尾	吉	文	美	美	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤	藤
7	4	4	4	6	4	6	6	5	5	6	5	6	4	4	7	4	6	4	5	5	4	4	5	8	4	7	4	5	4	能
參																														

大東人統人

B 73次成績表

手連

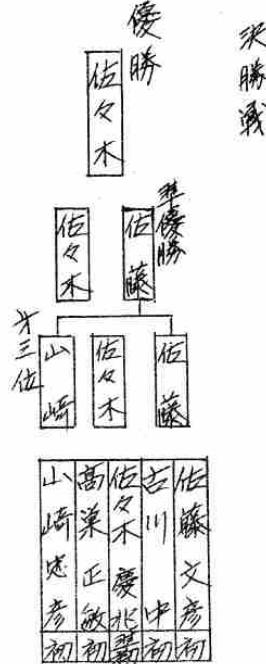
3	1	1	1	3	2	1	2	1	1	2	0	1	2	2	3	1	1	2	3	2	2	2	0	2	計					
0	X	X	X	0	0	X	X	X	0	0	X	0	0	0	X	0	0	0	X	0	0	X	X	X	總數					
01	南	倉	模	名	倉	安	長	久	水	大	佑	秋	藤	内	小	移	所	石	然	子	長	岩	大	高	事	山	對	局		
木	園	田	藤	日	收	政	部	羅	保	野	谷	木	山	木	山	羅	木	部	山	谷	崎	日	木	(國)	田	局	局			
0	0	0	X	0	0	X	0	X	X	X	X	0	X	0	X	0	0	0	X	0	0	X	0	X	0	X	總數			
内	諸	嶋	名	水	大	石	雨	江	福	伍	片	石	布	城	長	增	藤	福	大	守	山	北	津	長	秋	中	新	計		
山	川	日	取	野	谷	山	庭	口	島	藤	同	黑	施	定	島	田	本	木	野	崎	田	田	羅	山	井	田	局	局		
0	X	X	0	0	X	0	0	X	0	X	0	X	0	0	X	0	0	X	0	X	0	X	0	X	0	X	總數			
食	石	新	中	出	内	高	吉	小	喜	中	佐	山	守	山	市	良	山	大	旅	長	麻	廣	增	石	渴	對	局	局		
田	樹	晴	暮	山	圓	圓	圓	圓	圓	谷	久	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日		
0	29	29	29	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	NO.
石	食	中	高	舞	山	漸	内	小	喜	安	佐	中	谷	山	佐	山	漸	長	市	大	山	長	城	森	增	櫻	石	火	火	
山	田	再	榆	開	嶼	橋	山	櫻	田	屋	紫	島	田	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木	木
徳	政	良	春	重	隆	久	国	担	義	俊	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	寅	美	徳	喜	高	名	名		
義	治	健	節	之	修	二	允	草	男	一	治	彦	透	英	誠	翰	男	早	一	男	林	玄	武	天	輔	喜	正	明	進	
2	2	3	3	2	2	3	2	2	2	2	2	3	3	2	2	2	3	3	2	3	2	2	3	2	3	2	3	2	能	

統人

Bクラス 得勝戦



Cクラス 成績表



工場大1等			
3	2	0	1
0	X	X	X
深	山	鍊	縦
本	崎	度	葉
0	0	X	X
島	和	底	山
山	田	口	崎
④	0	X	0
不	伊	獲	縫
滅	森	金	縦
37	36	35	34
庄	横	伊	符
川	山	謙	井
		正	龍
		中	巴
御	11	11	11

「华侨たちの開拓人口が飛躍的に伸びた韓国」
これが、华侨たちが増えると同時に、巨万の富を儲けた華人民族成長する効果が期待されての新興国家らしい政策が主体となつてきているように見受けられる。
「日本に准じて、追い越せ運動」の一端として。



東洋證券杯（写真）のような大きい大会は国内注目のマト

韓国各界は花盛り

日本にも欲しい韓国の熱気

いまに始まることではないが、韓国各界は相変わらずの熱気だ。当時、十六歳の李昌鈞（イ・チヤンホ）が一段が一角に、葬の本がいっぱい、國內の名人位に就いたのが四年前だった。それから続々とタイトルを取りはじめ、今では十二冠王。そのイ・チヤンホ處女

が映されはじめてから围棋教室が飛躍的に増え始めた。今は韓国国内で千教室、十万人の子供たちが通っているそうだ。群は知らないだろう。東洋證券杯でソウルを訪れたとき、市内のブルックセ

通たが、ここは店の中央の一角に、葬の本がいっぱい、平積みされていた。葬の人気の高さを改めて感じさせられた。ついで人に頼んだ。今後、日本にもタイトル戦の取材などでケーブルテレビがやってくるかもしれない。

（青）

ツク（围棋）という大きな

十二月一日から本格的に始まる。本放送は、一月十時半頃から毎週土曜日の放映というから驚く。

（中）

キュメンタリー、日本や中

国などの海外ニュース、講

座などで構成されるそ

う

プロ・アマのニコニコ、ド

ラマ

（下）

日本にもタイト

ル戦の取材などでケーブル

テレビがやってくるかもし

れない。

（イ）

イ・チヤンホの登場によつて、子供たちの围棋人

口が飛躍的に伸びた韓国。

（上）

そんな韓国の熱気がうらや

ましい。



鏡開き④より小林棋聖、渡辺理事長、岩本九段・シアトルにて

北米に围棋会館オープン

日本本丸側では、かねてから地元有志の協力を得て、米国のシアトルとニューヨークに日本本丸隕石センターが、統一の理念を掲げて私財を投じて建設を進めていたが、この九月十六日に「シアトル開幕セントラル」が、統一の理念を掲げて私財を投じて建設を進めていたが、これは「開幕を世界に」

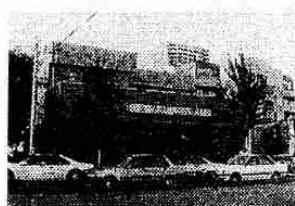
岩木九段の理念が実る

「ヨーロッパ開拓文化センター」（アムステルダム）を加えて四カ所となつた。シアトルでの開所式は、日本棋院からの渡辺文夫理事長をはじめ、岩本九段、小林覚棋聖のほか、岩本門下の棋士十四名が列席し、地元からも杉内總領事、シントル市長、日米協会会长など各界の名士多数を迎えて、一段といふ豪華キリストで実現勢百八十人の参加者によ
る。募金館」（サンパウロ）、
統いて十九日にニユーヨークで、地元から刈田継
タード、ニユーヨーク市長代理など三百三十人の来賓を得て、にぎやかに祝賀会が催された。
ここでは、日米両国の主賓の挨拶に統いて、岩本九段と小林棋聖の公開記念対局が、立会いが大枝葉介九段、大盤解説が加納彌徳九段、新海岸子四段による。

の理念を掲げて私財を投じ、自ら建設の指導にあたり、岩本九段は其院館開業者の協力で完成したもので、岩本九段の寄贈された海外開拓センターハーは既に

10

5



シアトル国際会館
白・岩本薫九段・黒・小林覚棋聖



ニューヨークでの開所式

て記録された記念の棋譜は写真製版されて水く岩本團碁会館に飾られる。(佐伯)

卷之二

責任者 福田新也
 営業時間 午前10時～午後
 11時(休業日なし)
 住所 323 EAST, 5TH AVENUE, NEW YORK, NY
 電話 (212) 625-1234

(67)